



平成22年9月17日

各 位

会 社 名 株式会社 ダイセキ環境ソリューション
代表者名 代表取締役社長 二宮 利彦
コード番号 1712 (東証・名証各第一部)
問合せ先 取締役企画管理本部長 村上 実
電話番号 052(611)6350 (代表)
当社の親会社 株式会社ダイセキ
代表者名 代表取締役社長 伊藤 博之
コード番号 9793 (東証・名証各第一部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成22年4月13日に発表いたしました平成23年2月期(平成22年3月1日から平成23年2月28日まで)の第2四半期累計期間及び通期の業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 第2四半期累計期間(平成22年3月1日~平成22年8月31日)

単位:百万円

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,134	240	239	141	2,359 81
今回修正予想(B)	2,311	27	20	8	135 05
増減額(B-A)	823	213	219	133	
増減率(%)	26.2%	88.7%	91.6%	94.3%	
(ご参考)前年同期実績 (平成22年2月期第2四半期)	2,996	272	252	147	2,458 31

2. 通期(平成22年3月1日~平成23年2月28日)

単位:百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,500	702	700	413	6,900 31
今回修正予想(B)	5,000	162	150	84	1,987 52
増減額(B-A)	2,500	540	550	329	
増減率(%)	33.3%	76.9%	78.5%	79.6%	
(ご参考)前期実績 (平成22年2月期)	6,991	693	651	377	6,310 04

3. 修正理由

国内経済は、アジア向け等の輸出の堅調を受けて、輸出関連企業の業績に改善の兆しが見られましたが、ギリシャ問題によるユーロ圏の信用不安が足かせとなる中、米国経済にも陰りが見え始め、円高株安が急速に進行し、デフレ経済は脱却の糸口が見えず、雇用環境や所得環境は依然として低迷が続いている等、出口の見えない厳しい経済状況が続きました。

このような経済情勢下ではありますが、環境問題に対する意識はますます高まっており、温室効果ガス削減への取り組みをはじめ、環境保全に対する企業の社会的責任がますます重視されております。そのような流れの中で「土壤汚染対策法」も平成22年4月1日に大幅に改正され、土壤汚染対策に対する規制が強化されております。しかしながら土壤汚染対策市場においては、平成22年4月1日よりスタートした「改正土壤汚染対策法」に対する対応についてやや混乱した状況が続いております。中期的には改正法による規制強化の効果が浸透し、不動産市況や設備投資需要の持ち直しとともに土壤汚染対策市場も回復に向かうと思われませんが、第2四半期累計期間においては、そのような回復兆候が見られず、回復時期は当初見込みより遅れる見通しです。

そのような状況の中、積極的な受注活動を展開する一方、引き続き原価低減を推し進めてまいりましたが、不動産市況・設備投資動向の低迷が続いたことにより案件が大幅に減少していること、及び、案件減少にともなう受注競争の激化と法改正による規制強化の効果が未だ不十分であることなどの影響で、想定以上に受注価格が下落していること等により、業績は大変厳しい状況となりました。

これにより、平成23年2月期の業績予想は、第2四半期累計期間及び通期ともに売上高、営業利益、経常利益及び当期（四半期）純利益が決算発表時（平成22年4月13日）に公表した予想数値を下回る見通しであります。

* 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上